

2025年6月11日

学校法人三幸学園  
名古屋リゾート&スポーツ専門学校  
校長 岩田 博文 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 浅野 栄介

### 学校関係者評価委員会実施報告

2024年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

##### 1 学校関係者評価委員

- ① 浅野 栄介 (有限会社太閤オフィスサービス 代表取締役社長)
- ② 酒井 光里 (株式会社 nano)
- ③ 玉田 鷹士 (第15期卒業生 株式会社 ACE)

##### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025年6月11日 (会場 名古屋リゾート&スポーツ専門学校 403教室)

##### 3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2024年度 学校法人 三幸学園 名古屋リゾート&スポーツ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小久保和紀

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 浅野栄介

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

★ 担任制度の変更：1クラス1担任・1副担任 → チーム担任制

※多様化する生徒のニーズや価値観に対応していく為に相談窓口を増やすことで退学率の低下を目指した。

※担任個々の経験・力量によるクラス間格差をなくすことを目的に実施した。

⇒退学率はおおよそ1%の低減という結果に至った。

★ 機能解剖学・キャリア教育のテキストの変更。

⇒目標喪失する学生は減った為、効果が出た可能性がある。

★ 同窓会委員の選出：今まで教員の担っていた役割を卒業生が担う。

⇒選出段階で愛校心のある学生を選出することができた為、2025年度に同窓会実施予定。

### ② 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員：2023年度の学生よりも勉強に対する意欲、モチベーションが高く出ている。学生の勉学に向かう姿勢に変化が見られるなど、取り組みが成果に出ているように感じる。

酒井委員：1年生の授業のなかで、解剖学の学習用アプリを利用する生徒が増加し、分からないことは学習用アプリで調べるという習慣がついていると聞いている。これは、アプリ普及の取り組みや使用の意義を伝えられている結果なのではと感じる。会社の研修では、アトラスの利用や、実際の種目と筋肉名をリンクさせた研修を行っている。カリキュラム変更により、実際の動きを確認しながら学べる施策は非常によいと感じる。

浅野委員：名古屋駅の西エリアで街づくりイベントが開催されている。そこに参画している専門学校もあるため、本校も参加できるようなイベントがあれば学校、地域ともに盛り上がるのではないかと感じる。近年街づくりイベントが増えてきているので、参画するチャンスは大いにあるように思う。

小久保さん：チーム担任制を導入することで、学生のニーズや多様性に合わせた対応を実施することができた。カリキュラムの変更についても実技授業を多くすることで筋肉や関節の動きを伴いながらの学びを得ることができ、こちらも学生のニーズに応えることができているのではないかと感じる。

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）         | 評価 |
|--|----|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)   | 4  |
| 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか                 | 4  |
| 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか    | 4  |
| 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4  |

#### ① 課題

- ・各学科の人材育成像が非常勤講師の先生方までには浸透していない。
- ・変化の多い業界のニーズに合わせた人材育成像になっていない可能性がある(SNS 等のカリキュラム編成)

#### ② 今後の改善方策

- ・学科会、学科 Teams にて年度初め、後期開始前などに共有していく。
- ・全体会議の中での学科会にて随時共有していく。

#### ③ 特記事項

- ・2025 年度よりカリキュラム変更が行われた。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員:昨年 10 月ごろフリーランス法が改正され、国の施策では介護・育児に対する課題を把握することが大切だとうたっている。パーソナルトレーニングを行ううえで、これらの課題などを知っておくことが大切なのではないか。社会問題に対して解決策をもつことが今後の業界には大切になってくる。介護・福祉に関する授業がないのでこのような問題に触れる機会は少ないが、業界で活躍するには必ず必要になる知識である。

酒井委員:学科・コースにとらわれることなく業種・職種を学生に紹介できれば学生にとっての利益、選択肢を広げられることに繋がる。雑談のような形式でも構わないので講師陣の持っている知識、業界の動向を伝えることが学生には必要である。

浅野委員:教育上必要なことは何度も伝える。何度も伝え、行動に移してもらうことが大切。そのために言い続けることが必要である。

小久保さん:業界のニーズ、学生のニーズに合わせて教育のやり方も変えていく必要がある。目まぐるしく変化する時代の中で我々も変わっていく必要があるのではないかと感じる。

## (2)学校運営

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）     | 評価 |
|--|----|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか                     | 4  |
| 事業計画に沿った運営方針が策定されているか                    | 4  |
| 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4  |
| 人事、給与に関する制度は整備されているか                     | 3  |
| 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか           | 4  |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか          | 4  |
| 教育活動に関する情報公開が適切になされているか                  | 4  |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか                | 3  |

### ① 課題

- ・新人事制度の運用開始に伴い、新規で対応すべきことが発生した。
- ・Sanko Gate の生徒定着は徐々にしているが、有効活用まで至っていないことやアンケート取得率向上の結果が出ていない。それに伴い事後のフォローをする業務が発生してしまい、業務の効率化ができていない。

### ② 今後の改善方策

- ・制度の目的を理解していけるように、会議等で伝達を行っていく。
- ・自己評価が高いメンバーもいるのでメンバー自身が設定した目標が該当等級で求めるレベルが同じとなるような設定をしていく。
- ・使用頻度を増やすことで職員全員が使用ツールの理解度を深めていく(マニュアル)
- ・アンケートがいつ発信されるか職員も生徒も把握することで効率化を図る。
- ・OJT 指導者との連携を図る。

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

浅野委員：我々の業界では、全般的にアナログ傾向である。AI を活用できている事例が現状では多くない。人事制度、給体系も大きな革新が見られる事例も少ない。

酒井委員：弊社では、リーダーになれる人材を育成することが目標であり、年功序列のような制度はない。リーダー特典、プレーヤー特典など、業務内容によって評価内容が変わる。それぞれの業務内容に応じて点数付けを行うため、年次に関係なく評価が行われており、社員も評価制度に納得のうえ業務にあたっている。会社評価と自己評価に乖離がある場合もある。他人から与えられた業務を遂行できたことで自己評価が上がっているが、これは他人から与えられた業務であり、本来は自身で考えて業務を遂行することが求められるので評価に乖離が生じる。これは年次の低い社員に起こりがちである。

玉田委員：弊社では、会社の目標が達成されたかどうかによって、社員全員の報酬があがる評価制度となっている。リーダーをやりたい社員・サポートしたい社員・それ以外の社員によって評価項目を分けている会社もある。

小久保さん：新人事制度の開始に伴い、評価制度も変更となった。新人事制度の意図や内容を職員に浸透させ、理解させたうえで業務に臨んでもらう必要がある。

### (3)教育活動

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）                                      | 評価 |
|---|----|
| 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか   | 4  |
| 目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4  |
| 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか   | 4  |
| キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか                        | 4  |
| 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか                         | 4  |
| 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか                   | 4  |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか  | 4  |
| 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか   | 4  |
| 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか  | 4  |
| 資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか                                      | 4  |
| 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか                                 | 4  |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか                | 3  |
| 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか                 | 3  |
| 職員の能力開発のための研修等が行われているか  | 4  |

#### ① 課題

- ・就業に繋がる就職行事などを定期的に行っているが、活動や生徒の状況に関する評価を都度ただけではない。
- ・カリキュラムの作成と見直しは科目によって様々となっている。業界団体以外のカリキュラム見直しは講師等校内で完結してしまっている状況。
- ・学科により差はあるものの、ボランティア等課外活動への参加率が低く校外での職業教育が十分にされていない。
- ・任意研修の職員参加率が低い。原因は日程が授業と被ってしまい参加できていない。

#### ② 今後の改善方策

- ・関連企業の方をお呼びした際に、都度アンケートを実施するなど、現在の取り組みの振り返りを行う機会をつくる。
- ・職員が積極的な企業訪問で業界の魅力理解や魅力のある企業の新規開拓をする。
- ・研修を受けてきた人より内容を共有して未参加者の研修意欲を高めていく。
- ・会議などで、今までの関連企業に限らず業界のニーズやトレンドを取り入れた研修の機会を作る。

#### ③ 特記事項

- ・全体会議にて職員向けの授業力向上の為の取り組みは実施している。
- ・ST 科キャリア教育において表業界団体との連携を開始した。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

酒井委員：弊社では外部講師を呼んで勉強会を行っている。知識の醸成だけでなく、コミュニティの形成にもつながる。社員との面談をふまえて個別に研修の案内を行うこともある。社員の年次や担当業務内容によって案内する研修を変えることで、より参加しやすくなる。

玉田委員：研修自体は積極的に行っていただきたいと考えている。授業と研修時間が被ってしまう問題については、夏休みなどの長期休暇期間に実施いただければ参加しやすくなるのではないかと。万博や展覧会などに参加された方がいれば、内容の共有などがあるとトレンドや最新の情報を取り入れることができる。弊社では3年目から5年目の社員向けに現場での課題に対して解決法を見出せるような研修を行っている。

浅野委員：弊社では、外部の協会や団体が主催する最新設備の見学会などに参加して、最新情報を取り入れている。

小久保さん：本校では、多様な研修を用意し年次によって参加する研修を変えることで現在の業務に合わせた研修を選択できるようになっている。また、研修参加者が研修内容をまとめて職員に共有することで、学びのアウトプットに繋がり、研修を受けていない職員も研修内容をインプットできるため、双方の知識レベルを上げることができている。

#### (4)学修成果

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）  | 評価 |
|---------------------------------------|----|
| 就職率の向上が図られているか                        | 4  |
| 資格(免許)取得率の向上が図られているか                  | 4  |
| 退学率の低減が図られているか                        | 3  |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか            | 3  |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3  |

##### ① 課題

- ・卒業後の定着率やリカレント教育の希望など、卒業生のニーズをとらえきれていない。
- ・学科により差はあるものの、全体を通して既存で関わっていただいている企業への就職者が多く新規での企業開拓ができていない。
- ・卒業生向けの SNS 発信はしているものの登録者数や閲覧数が増えずに伸び悩んでいる。
- ・主要資格の合格率は上がったが、受験率が 100%とならない。
- ・目標喪失や進路変更での退学率低減は前期間キャリアと連動させることで好調であったが、進級を前にとすると軽減できていないので対策が必要
- ・卒業学年の単位不認定による退学率が増えた。

##### ② 今後の改善方策

- ・資格対策を通常の授業と連動して行い、より多くの講師の方に通常授業において資格の必要性や、日々の学び方を伝えていただく機会をつくる。
- ・卒業後アンケートの回答率を向上し正確な情報を獲得できるようにする。そのためにも卒業生のネットワークの構築を行う。
- ・生徒のニーズを把握した新規企業開拓と定期的な訪問を実施する。
- ・定期的な配信をすることで、常にリアクションを見ていく事とより有益な情報発信をしていく。

##### ③ 特記事項

特になし

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員:6 月ごろに卒業生から会社を辞めるという連絡を受けることが多いと聞いている。パーソナル業界では、研修などないまま突然一人で店舗を任されることがある。これを回避するためには就職後の研修制度が必要。教員から卒業生への声掛けがあるだけでも離職率の低下に繋がるのではないかと感じる。リノスポ卒業生の特権があると卒業生であることをアピールできる。

酒井委員:入社後のモチベーションが会社を続けるうえで大切だと感じる。卒業生のアンケートから会社に対する不満や不安を吸い上げることができれば、就活生に還元することができ、結果として離職率が下がるのではないかと感じる。学校側が企業訪問をすることで、企業側も緊張感を持つことができ、卒業生にとっても相談しやすい環境ができる。

浅野委員:入社前後のギャップが退職理由として多いように思う。噂として流れてくるような話は入社前に確認をさせることも大切であるように感じる。

小久保さん:キャリア教育の内容変更により、豊かな人生の過ごし方の学びを取り入れるなかで、職業選択に必要なことも伝えている。離職率の低下に繋がることを期待する。

## (5)学生支援

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）    | 評価 |
|---|----|
| 進路・就職に関する支援体制は整備されているか                  | 4  |
| 学生相談に関する体制は整備されているか                     | 4  |
| 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか               | 4  |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか                      | 4  |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか                   | 4  |
| 学生の生活環境への支援は行われているか                     | 4  |
| 保護者と適切に連携しているか                          | 4  |
| 卒業生への支援体制はあるか                           | 3  |
| 中途退学者への支援体制はあるか                         | 3  |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか               | 3  |
| 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4  |

### ① 課題

- ・外部活動を行える機会をより多く確保する取り組みは行えているが、外部活動参加につながる取り組みにおいては改善の余地がある。
- ・中途退学者を出さないような、教務的な支援は行っているが、退学後の支援までは行えていない。
- ・卒業生の現状把握ができておらず、求めている支援内容が把握できていない。
- ・独立支援など、支援している内容の理解がなされていないので活用されない。
- ・チーム担任を導入したが学科によってチーム担任がうまく機能しておらず、生徒の相談先が曖昧になってしまった。

### ② 今後の改善方策

- ・外部活動に向けた事前のガイダンスの実施。
- ・退学後の支援につながるような、求人確保。
- ・卒業後の支援内容が明確になっておらず支援内容を把握するための会を開催する。
- ・卒業後の情報発信ツールを浸透させていく。
- ・新入生はスタプロよりチーム担任で稼働を組み生徒へのチーム担任意識を早くから持たせることとした。

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員：テラスポ鶴舞にて、学生がイベントを企画し、ブースを開く内容でボランティア募集をしたが、先輩が開いたブースを見て自分もそうなりたいと思う学生がいた。このようなサイクルができてくると、ボランティアに参加する学生が増えていくのではないかな。

小久保さん：今年度から、同窓会の活動を増やし、卒業生との連携を密にしていく。地域を巻き込んだ活動も積極的に実施していきたい。

## (6)教育環境

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）       | 評価 |
|--|----|
| 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか           | 4  |
| 学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 3  |
| 防災・安全管理に対する体制は整備されているか                     | 4  |

### ① 課題

- ・インターンシップの受け入れ先を生徒の希望を 100%叶える状況に至っていない。
- ・海外研修の内容・費用においては改善の余地あり。
- ・インターンシップの希望が 100%生徒の希望通りとはいっていないため、多くの企業様やチームへ本校の教育理解をしてもらう事が必要。

### ② 今後の改善方策

- ・学生からのインターンシップ希望施設のヒアリングを行う前段階で、ある程度関連企業、チームに協力要請を行い、インターンシップ先を確保する。
- ・企業様へ訪問し、本校の理解をってもらう事と受け入れ先のメリットを擦り合わせることで実習のより良い受け入れをしてもらう。
- ・適切な価格で提供するためにアメリカだけでなく時期や地域等外的要因として大きな影響がない地域も検討する。
- ・スポーツトレーナー科の実習体系が変わるため新規開拓をしていく。

### ③ 特記事項

- ・8 階フロアの改装が実施された(2025 年 3 月)

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

酒井委員：実習先として登録するうえで、お客様の予約次第で内容や活動時間に変動が出てしまい、学生を受け入れる体制ができていない。パーソナルジムが実習先として登録されていることが理想だが、現実的には上記のような問題があり難しい。

浅野委員：防災設備は完璧に整備されている。

小久保さん：実習先の新規開拓が必要と感じている。実習先の開拓により、学生の学びの機会の増加、選択肢を広げることに繋げたい。

## (7)学生の受入れ募集

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 学生募集活動は、適正に行われているか                   | 4  |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか          | 4  |
| 入学選考は、適性に行われているか                     | 4  |
| 学納金は妥当なものとなっているか                     | 4  |

### ① 課題

- ・高校の先生が、本校の数ある入試方法が全て理解できていない事により、入試方法選択に影響が出ている。
- ・大学迷い層へ専門学校の魅力が十分に伝えられていない。

### ② 今後の改善方策

- ・入学相談室と連携を取り高校との関係性を深め、入試方法の理解促進を進める。
- ・星槎大学での保健体育教員免許がとれることの訴求をする。
- ・業界内就職率の向上をすることで大学と差別化する。

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員:学校の商品は授業であり、何を学ぶことができるのか、資格取得の意義などを SNS で発信できると、より学校の魅力が届けられるのではないかと。

酒井委員:学生が発信する SNS が高校生にとっては近い目線になるので、学生が発信する頻度を増やすと、学校のイメージを掴みやすいのではないかと。実際の現場では、大卒者・専門卒者で実践力に差は感じない。ビジネス関係の知識は大卒者の方が優位に感じる。

浅野委員:大卒者・専門卒者ともに就職活動は自分たちで進めていることが多い。学校の先生には就活の手助けをしてもらえると安心できる。就職先の斡旋や、卒業生の活躍を紹介してもらえるとありがたい。

小久保さん:今年度 18 歳人口がボトムとなり、今後 10 年ほどは緩やかに推移していくので、募集対象の母数に大きな変化はないため、入学者数確保のための施策を改良しながら実行していくことが大切。

## (8)財務

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか             | 4  |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか             | 4  |
| 財務について会計監査が適正に行われているか                | 4  |
| 財務情報公開の体制整備はできているか                   | 4  |

### ① 課題

#### 【中長期計画】

特になし

#### 【予算・収支計画】

特になし

#### 【会計監査】

特になし

#### 【財務情報の公開】

特になし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023年度～2027年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

#### 【財務情報の公開】

特になし

### ③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか      | 4  |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか           | 4  |
| 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか                | 4  |
| 自己評価結果を公開しているか                       | 4  |

① 課題

特になし

② 今後の改善方法

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (10)社会貢献・地域貢献

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）        | 評価 |
|---|----|
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか             | 3  |
| 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか                      | 4  |
| 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 3  |

### ① 課題

・サービスラーニング演習(ボランティア実習)の単位不認定者が目立つ。

### ② 今後の改善方策

特になし

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

浅野委員：高齢者向けに学校の運動施設の開放と、運動指導ができると地域貢献につながるのではないかと。

玉田委員：サービスラーニングとして清掃活動を行うのはどうか。同地区の姉妹校では社会福祉士と連携して西区の公民館でボランティア活動を行っているようなので、このように外部施設を利用して学生主体のイベントなどを行うことで地域貢献につなげていけるのではないかと。

酒井委員：姉妹校との連携ができれば活動の機会や幅が広がるのではないかと。例として、姉妹校が行う結婚式に連動してボディメイクを行うことで、姉妹校との連携と地域貢献ができるのではないかと。

小久保さん：高齢者向けの施設開放は実現できると地域の連携や貢献につなげられるのではないかと。ボランティア活動の機会を提供することは大切だが、参加率を上げることも同じように重要だと感じている。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

### 【学校側より】

今年度より新しい施策を導入するなかで、成果の出ている部分と、成果が振るわない部分と大きく明暗が分かれたように思う。また、浮彫となった新たな課題に対しては、評価委員会からのコメントをいただきながら、改善につなげていく必要があると感じている。評価委員からのコメントにより新しい視点や気づきを得ることは評価委員会の大きな目的の一つであり、施策の改善につながるような気づきを得るために様々な立場、視点からのご意見をいただくことを期待している。

### 【評価委員より】

新たな施策により、学校において社会で活躍する人材を育成することに日々奔走していることが感じられた。日々変化する社会に対応できるように学校や職員も変化していく必要があることを改めて感じた。教育理念を講師、メンバー、生徒に浸透させていくことが大切であると感じた。今後も本会において活発な意見交換を実施し、学校運営および地域貢献につなげていただきたい。